

カンパニー ナウ COMPANY 第987回 NOW!

外為ファイネスト —中国パワーで日本を元気に

世界中で台頭している中国。日本においても、中国系企業が日本へ進出するために、日本企業を買収する事例は、今や珍しい話では無くなってきている。

今回紹介する外為ファイネストも約2年前に中国（香港）資本となった会社である。香港を拠点に、中国、オーストラリア、スイスなどで約20年間総合金融業者としての実績を積んできたHANTEC GROUPが本格的に日本市場に進出するにあたり、2009年1月に当社株を買取り、子会社とした。

飛ぶ鳥を落とす勢いのある中国企業が親会社になったからと言って、その資本力に物を言わせた営業が出来るほど日本市場も甘くない。成熟した日本市場においては、それなりの対応が必要となってくる。

「当社が香港資本となって約2年近く経ちますが、他社同様、現在に至るまで困難の連続でした」と代表の石野氏は語る。

支店の閉鎖、取扱商品の大幅見直し、そしてリストラ。「何が一番苦労したか？」との問いに、石野氏は間髪入れず「リストラでした」と答える。その理由は日本と海外の意識の違いだったそうだ。

代表の石野氏は学卒後、日本の証券会社を経て、香港にある外資系金融に就職して香港に移住。その後HANTEC GROUPに入社。現在は当社の代表に就いているが、日本の金融業界に身を置くのは約15年ぶりとなる。

「契約社会の外国資本企業に対し、終身雇用が前提で愛社精神を重んじる日本の企業文化は社員の意識も大きく違います。この15年で日本は国際化や女性の社会進出がかなり進みましたが、社会制度や社員の意識に大きな変化は感じられませんね」と言うように、社員を円満退社に持っていくのは非常に苦労したそうだ。

「日本に元気を与えたい」と語る石野社長（前列左）と従業員のみなさん



現在、当社には日本語を含め3カ国語以上を話せる中国人スタッフが数名在籍している。「これは、決して香港資本の会社だからということではなく、優秀な人材がたまたま中国人であったということだけです」と石野氏。中国市場に対応するために中国人を雇う例は増えてきたが、当社はターゲットが日本市場である、という点が今まであまり見られなかった事例だ。今や、人手の補充やコスト削減で中国人を雇う時代ではないのである。

一方、日本人としてうれしい話も聞くことができた。アジアにおいて東京にオフィスを置くことは、依然としてステータスがが高く、企業の信用力を高め、世界への拡大を目指すにはメリットとなるとのことだ。

東京に拠点を構え、世界に目を向けた当社の経営姿勢は顧客へのサービスにも表れている。世界の投資家から高い評価を得ているCURRENEX（カリネックス）社の最先端金融取引システムを日本で最初に採用し、その評判から日本市場での新規顧客は増加傾向だ。

小粒でもキラリと光る当社の姿は、国際化が進むこれからの日本において、より多く見られる企業の形となろう。

（取材・文／東京支社情報部 藤本 直弘）

会社概要

外為ファイネスト（株）

企業コード：986939041

東京都千代田区丸の内2-2-2丸の内三井ビルディング2階

電話03-6268-0234、石野由美子社長

設立：1999年3月、資本金：4億8149万2965円

事業内容：外国為替証拠金取引媒介業

従業員：14名

<http://www.gaitamefinest.com/>